

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：34419

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2023

課題番号：17K13591

研究課題名（和文）パンジャブ移民による文化空間の共有と文化的実践に関する人類学的研究

研究課題名（英文）A study of cultural practices in common space for Punjabi migrants

研究代表者

東 聖子（Azuma, Masako）

近畿大学・国際学部・准教授

研究者番号：00735102

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：移民の特徴は出身国のそれと同一視され、確定的なものとして語られることが多く、移民自身も出身国に基づくアイデンティティを意識する機会は少なくない。しかしながら、移住先での経験や出身地との往来等によって、出身国を自明の単位とする特徴づけやアイデンティティは、捉え直され、更新されることを、カナダのパンジャブ移民への調査をとおして示した。インド亜大陸北西部パンジャブ地方からの移民の出身国はインドとパキスタンで異なるが、文化・社会的背景を共有するため、移住先において近しい関係になる。かれらのカナダ社会における経験には、国民国家の枠に囚われない文化実践のあり方が存在することが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義  
国民国家の枠組みに基づく文化的特徴づけやアイデンティティは、自身にも他者に対しても、自明かつ確定的なものとして捉えられがちである。移民についても同様に、出身国の文化的特徴に基づき特徴づけされる。しかしながら本研究は、移住先における移民の様々な経験には、国民国家の枠に囚われない越境的な文化の共通性とそれに基づく文化的実践があることを示している。移民に対する一枚岩的な見方や出身国にもとづく特徴づけが正しい認識ではないこと、移民が越境的かつ創造的な文化の実践者として、移住先と出身地の双方に貢献する存在であることを明らかにした。誤解や偏見に陥らずに移民を捉える視点を提示している。

研究成果の概要（英文）：Migrants are described as representatives of the country where they come from. They also see their own feature in the country they came from. However, their cultural features and identities can be renewed through their experiences of communications and cultural practices. This research described transborder culture and its creativity practiced by migrants.

研究分野：移民研究、文化人類学

キーワード：パンジャブ移民

## 1. 研究開始当初の背景

インド亜大陸北西部パンジャブ地方は、現在のインドとパキスタンに跨る。そのため同地方出身移民の出身国はインドもしくはパキスタンである。イギリスからの分離独立以来インド・パキスタン両国の対立が続くなか、両国間の交流や往来は容易ではなく、自国内の報道では国境の向こう側は敵国として常に描かれる。しかしながら、パンジャブ地方には言語をはじめとする独自の文化慣習があり、それらはインド側とパキスタン側双方に通底する文化・社会的基盤となっている。そのため、パンジャブ移民は出身国にかかわらず、移住先における共通の文化実践をとおして近い関係を築く姿がみられる。

インドおよびパキスタン出身のパンジャブ移民が日本において良好な関係を築き、日本での生活をお互いに支え合うような間柄となっていることが確認されている (Azuma 2019)。かれらはパンジャービー語で会話をし、パキスタンのテレビ番組のビデオやインドのポリウッド映画のビデオを貸し借りし、スパイスで調味した料理をともに食べ、日本での生活や仕事に関する相談をする。このようなやり取りをはじめとするかれらの文化実践のあり方からは、敵というよりも同胞として互いの存在を認識している様子が窺える。とはいえ、日本におけるパンジャブ移民の数は、世界各地のそれに比べるとかなり少ない。とすると、上述のような出身国の異なるパンジャブ移民同士の交流は、日本のようにパンジャブ移民の数が少ない地域特有の現象なのだろうか、という疑問が出てきた。

そこで、インドとパキスタン双方からの代表的な移民先として知られる地域では、パンジャブ移民同士どのような交流が行われているのかを考えるようになった。そのような移民先としてイギリス、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリアなどが挙げられる。これらの地域のパンジャブ移民に関する先行研究をみると、インドとパキスタン両国からの移民を対象とするものはほとんどなかった。いずれの先行研究においても、パンジャブ移民はインドおよびパキスタンからの移民のうちのひとつのエスニック・グループと位置付けられている。そして、両国に跨るパンジャブ地方に由来する文化・社会的な共通性への注視や、出身国の異なるパンジャブ移民同士の交流に着目する視点はみられなかった。

このような状況をふまえ、本研究ではインドとパキスタン双方からのパンジャブ移民の集住地区が存在するカナダのトロント近郊において、パンジャブ移民の文化実践に着目した研究を実施するに至った。日本におけるパンジャブ移民のように、出身国の枠に留まらない交流や文化実践、それらの舞台となる共通の文化的空間は、移民数の多いカナダでも同様にみられるのだろうか。移民の文化実践やその空間に、既存の範疇や認識に縛られない創造性や越境性を見出すことができるのだろうか。これらの問いについて明らかにしようと本研究が実施された。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、移民の文化実践やそれが行われる空間に、既存の範疇や認識にとらわれない文化の創造性や越境性を見出すことである。文化の特徴を考える際、国民国家の枠を自明のものとして捉えがちであり、移民について考える際にも同様である。しかしながら、出身国から離れ異なる国に移民し、新たな環境で生活を築く人々を考える際、越境的な文化の実践やその創造性を想定しなければ、適切に理解することはできない。本研究ではカナダのパンジャブ移民の文化実践やそれがおこなわれる空間に着目し、移民による文化の創造性や越境性を見出すことで、国民国家の枠に基づく固定的な文化認識から脱することを目指す。固定的な文化認識は移民像

にも反映され、誤解や偏見に繋がりがかねない。本研究では、移民が経験する文化の越境性や創造性について考察することで、国家と文化のあり方について再考を促す。

### 3．研究の方法

カナダのトロント郊外にあるパンジャープ移民集住地域でのフィールドワークを実施し、移民の文化実践の場において参与観察を行った。具体的には、移民コミュニティの集会やイベントでの参与観察、そこで知り合った人々にパンジャープ移民同士の交流に関する聞き取りを実施した。出身地と移住先の往来にも着目し、インドとパキスタンへの一時帰国時の様子に関する聞き取りも実施した。また、パキスタン出身者の一時帰国日程の一部に同行し、パキスタンでの調査も行った。

### 4．研究成果

移民の特徴は出身国のそれと同一視され、確定的なものとして語られることが多く、移民自身も出身国に基づくアイデンティティを意識する機会は少なくない。しかしながら、移住先での文化実践を通じた経験や出身地との往来等によって、出身国を自明の単位とする特徴づけやアイデンティティは、捉え直され、更新されうることを、カナダのパンジャープ移民への調査をとおして示した。また、出身国の枠に留まらない越境的なパンジャープ移民の文化が創出されていることも分かった。

インド亜大陸北西部パンジャープ地方からの移民の出身国はインドとパキスタンで異なり、出身地では交流のない「敵」同士という間柄だが、移住先では同じ文化を共有する「同郷者」となる。移住先で同郷者同士としてのパンジャープ移民の経験は、文化を捉える際に国民国家の枠を自明とする傾向に再考を促す。国民国家の枠による文化認識は一枚岩的かつ固定的に文化を捉え、偏狭なナショナリズムにも陥りかねない。本研究は、このような文化の捉え方が適切ではないことを、パンジャープ移民の文化実践の考察を通して明らかにした。

とはいえ、パンジャープ移民が出身国という範疇を越えて越境的な文化実践を行い、移民独自の文化を創り出している背景として、移民受け入れ国であるカナダとその移民政策という社会的な土壌を共有している点を考える必要がある。カナダにおける「ヴィジブル・マイノリティ」や「南アジア系」という枠の設定とその共有は、パンジャープ移民による越境的な文化実践の舞台を提供するのに有用な土台となっている。さらに、宗教に着目すると、パンジャープという括りでは捉えきれない文化実践の様子がみえてくる。

また同じパンジャープ移民でも、イギリスからのインド・パキスタン分離独立時の経験とその記憶を自身の出自やアイデンティティと重ねて認識する世代と、その子や孫の世代では、パンジャープ文化の実践のあり方は異なる。幼少期にカナダに移民した世代や、カナダ生まれの世代では、上の世代ほどパンジャープ文化の越境性が自明のものではない。そのかわり、宗教的アイデンティティが注視され、その結果、パンジャープ移民同士が宗教的他者としてお互いを認識する場面も珍しくない。

このように、移民をめぐるカナダ社会という文脈や出身地での経験や記憶の有無が、パンジャープ移民の越境的な文化実践に寄与したりしなかったりする。けれども、カナダのパンジャープ移民のカナダ社会における経験から、国民国家の枠に囚われない文化的特徴づけやアイデンティティの創出を可能とする移民の文化実践が明らかとなった。文化実践の空間における越境性は、移民が独自の文化を創出するための重要な要素として捉えることができるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 東聖子	4. 巻 33
2. 論文標題 食を通しての宗教実践—スィク教徒移民の「ランガル」の事例	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 南山大学宗教文化研究所研究所報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東聖子	4. 巻 7
2. 論文標題 多文化社会における移民の文化実戦とモビリティ—トロント近郊バンジャープ移民の事例より—	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京外国語大学南アジア研究リサーチペーパー	6. 最初と最後の頁 1 - 20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件/うち国際学会 5件）

1. 発表者名 東聖子
2. 発表標題 トロント近郊における南アジア系移民の文化的紐帯とその展開
3. 学会等名 日本南アジア学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masako Azuma
2. 発表標題 Transborder relations through cultural ties among South Asian migrants
3. 学会等名 IUAES（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masako Azuma
2. 発表標題 Mobilities of Indian Punjabi migrants in the Greater Toronto Area
3. 学会等名 IUAES 2019 Inter-Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masako Azuma
2. 発表標題 Mobilities of Indian Punjabi migrants in the Greater Toronto Area
3. 学会等名 International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, Inter-Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masako Azuma
2. 発表標題 Cultural and social space of Punjabi migrants in the Greater Toronto area
3. 学会等名 International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------